

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|--|-------|--|
| C-132 | C-141 | 20-403 |
| | | 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 佐久間寛之 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Childhood Trauma Exposure and Alcohol Dependence Severity in Adulthood: Mediation by Emotional Abuse Severity and Neuroticism 小児期トラウマと成人後のアルコール依存症重症度：感情的虐待重症度と神経症傾向の媒介効果 | | |
| 執筆者 | | |
| Schwandt ML, Heilig M, Hommer DW, George DT, Ramchandani VA. | | |
| 掲載誌 | | |
| Alcohol Clin Exp Res. 2013 Jun;37(6):984-92. doi: 10.1111/acer.12053. Epub 2012 Dec 27. | | |
| キーワード | | PMID |
| 断酒、アルコール依存症、逆境体験、パーソナリティ、早期ストレス | | 23278300 |
| 要旨 | | |
| <p>目的：小児期のトラウマは成人後、アルコール依存症などのさまざまな悪影響に関連する。既存研究では、小児期トラウマと精神病理的重症度との関連で、神経症傾向が媒介効果を持つことが示唆されてきた。本研究では治療を求めるアルコール依存症群において、複数の小児期トラウマのタイプの有病率を調べるとともに、小児期トラウマとアルコール依存症の重症度をさまざまな媒介分析によって調べた。</p> <p>方法：対象は治療を求めるアルコール依存症群 (n = 280) と健常対照群 (n = 137) である。感情的虐待、性的虐待、身体的虐待、情動的ネグレクト、身体的ネグレクトの五つの小児期トラウマの分布を、小児期トラウマ質問票 (Childhood Trauma Questionnaire) をもちいて調べた。アルコール群ではさらに、複数の媒介分析を用いて小児期トラウマとアルコール関連の指標、とりわけアルコール依存症重症度との関連のモデルを調べた。</p> <p>結果：小児期トラウマは、有意にアルコール群に多く、重症度も高かった。さらに小児期トラウマはアルコール依存症の重症度に対し、神経症傾向を媒介して影響を与えていた。個々のトラウマの種類においては、感情的虐待が第一の依存症重症度の予想指標であった。その関連は直接効果としても、神経症傾向の下位項目である強迫性による媒介効果としても認められた。身体的虐待もまた、依存症重症度に中程度の媒介効果を示した。健常対照群においては、小児期トラウマと AUDIT スコアとの間に媒介効果は見られなかった。</p> <p>結論：小児期トラウマはアルコール依存症群に非常に高率に見られ、負の影響における内在化の過程を通じ、依存症の重症度に重要な役割を果たしている可能性がある。小児期の感情的虐待歴を持つアルコール依存症は、重症化しやすい可能性が示唆された。</p> | | |